

令和5年度第2回茂原市地域公共交通会議 議事概要

日 時 令和5年9月26日(火)
午前10時00分から午前11時40分まで

場 所 茂原市役所1階 101会議室

出席者 委員 17名

深山委員(代理:加藤)、鶴野委員、清藤委員、清水委員、成田委員、高山委員、平見委員、丸岡委員、梅田委員、白土委員、小林委員、小松委員(代理:成松)、豊田委員、平井委員、渡辺委員、金野委員、藤井委員

事務局 5名

都市計画課 積田課長、川崎補佐、野村係長、小関副主査、酒井主事

会議内容(進行:川崎補佐)

1 開会 午前10時00分

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 道路本復旧工事に伴う市民バス迂回運行ルート(案)について

質疑なし。

承認。

(2) 茂原市地域公共交通計画策定に係る協議

<質疑>

委員:市街地循環運行について詳しく教えていただきたい。元々、循環バスが無いことが疑問だったので、どのような形で検討が進められるのか知りたい。

事務局:茂原駅を中心に路線バスや循環バスがネットワークされているが、茂原駅周辺に多くの人口や主要施設が分布しているため、これらを繋ぐような循環バスをイメージしている。

会長:補足や具体説明は可能か。

事務局:市役所に行きづらいという声があり、駅から市役所、市役所から商業施設や福祉センター系を結ぶような環状線をイメージしている。

委員:何年度までにといった目標の設定はあるか。

事務局:令和6~7年度で検討し、令和8年度から実施予定である。

委員:実施事業の概要の5年間「研究」「検討」と書かれている部分について、明記されなくても毎年

の評価状況によって「実施」へ書き替えられていくのか。

事務局：研究だけでなく実施という言葉も必要ではあるので、時期は明確にできないが、調整できればと思う。

委員：検討に2年もかけず、事業を少しでも早く実施して欲しい。

事務局：そういったご意見もあるということで、前倒しで実現できれば、部分的にサービスの拡充について実現できるよう善処したい。

委員：地域に合った交通はどのような形がよいのか、計画に囚われず、協議会で検討を進めていきたい。

別件だが、基本方針と基本目標は何が違うのか。協議会関係者ではなく一般市民に分かりやすく伝えるため、整理された方がビジュアル的に良いと思う。

もう1点、私たちは地域の足を守るために頑張ってきたが、バスやタクシーが乗務員不足で困っている。努力はしているが、いかんせん一朝一夕には解決できないため、乗務員確保のご理解ご協力をお願いしたい。茂原市とハローワークの共同で説明会等を開催できればと思う。

会長：市の方にもご要望いただけたら、応えられると思う。

事務局：市の方でも協力できるところはしていきたい。基本方針と基本目標については、言葉が裏返しになっているので、再考させていただきたい。

委員：全ての市民に関わることなので、分かりやすさを前面に出していただければと思う。

会長：国へ補助金の申請をする際に、計画の形式に決まりがあるのか。

事務局：基本的に記載すべき項目は決まっているので、それらを踏襲して計画を策定中だが、分かりやすい形になるよう再考させていただきたい。

会長：現実離れしてしまっている。目標設定について、実施可能な部分と、こうあってほしい部分、市が重点的に取り組む部分、それぞれを絞り込んでいただければと思う。

委員：地域間幹線系統について、課題点や、補助を受けて維持しているなどの補足情報などを、表としての整理のみならず文章としても入れてもらえたらと思う。

また、JR外房線利便性の向上について、要望というのが事業になるのか。JR側に要望しても、お客様側の利便性向上にどのように繋がるのか分からない。具体的な要望内容は交通会議委員にも知らせてほしい。実施と書いてあるが、検討ではないか。計画を決めるまでには情報の整理がいるのではないか。

もう1点、5年間で「検討」「研究」などとあるが、「評価」「検証」といったようなチェックポイントを明記した方が市民にも伝わりやすいと思う。

また、「地域公共交通事業者のみでは持続可能な公共交通体系の構築は困難」とあるが、事業を縮小せざるを得ないのをそのまま待つよりも、維持のための取り組みも加えた上で検討いただきたい。

委員：茂原市は対象になるか不明だが、茂原市では真っ当な公共交通で先ずは対応していただきたい。

会長：自家用旅客運送とはどのような制度なのか。この言葉は事務局で理解しているか。専門用語なので注釈を付けていただきたい。

委員：指摘はもっとも。輸送量の変更や事業に関して、現状はきちんと明記する必要があると考える。

JR外房線利便性向上については事務局がどういう思いで盛り込んだのが大切で、茂原市にとって基幹となる鉄道事業であり、ここを強化しないとバスやタクシーといったフィーダー交通が浮上してこないのであれば、事業として盛り込めば良いと思う。ただし、事務局内で実施可

能な事業ではないので、「実施」と明記して良いかは保留であるとする。

また、検討から実施につながる部分については、チェック機能が無い中で動くため、事務局として基準を考えておかないとPDCAは回らないだろう。PDCAチェックの基準、検討から実施に移行する際に、まずはきちんと精査するタイミングを作るべきである。また、やめられる仕組みも考える必要があると考える。利用率の状況や地域の方にマッチしているか等、ルールも市の中で作りこむべきであり、計画を作る方も意志を持って頑張ってもらいたい。

特に、エリアを拡大するという事は、利用者にとっては利便性が向上すると思うが、茂原市に根付く交通事業者を潰すことにもなるので、検討できる時間とデータを持って判断していただきたい。

運転手不足については書き方の問題で、交通事業者が抱えている問題に対して、行政側が伴走者として動かす必要があるため、この文言は精査して書き換えていただきたい。

バスの再編を検討する際、他の自治体では「1便当たり5人乗車平均」等の基準を設け、これを下回った時に路線としての位置づけを検討する自治体が増えてきている。モバスに関してもチェック機能を設けることを検討していただきたい。

計画は目標をもって作りこみ、またそれがどのような結果を得られたか、達成目標でないといけな。今回の素案では基本方針・目標が並びになっているが、本当は階層になっていないといけな。段階的に絞り込めた事業に繋がっているという見せ方をしていただきたい。

会 長：方針と目標って並列なのですかね。

委 員：方針というのは文言だけの思い。その思いを達成するために掲げるのが基本目標。その目標を達成するための具体的な事業が実施計画に当たる。計画論の中で目標や方針という言葉は階層的な位置づけになっていることが常に見える化できていないといけな。

会 長：その辺りを踏まえてご検討をお願いいたします。

茂原駅のバリアフリー化の検討とあるが、具体的にどの部分を検討するのか。

検討という言葉だけ先走りしており、具体的な案が見えない。

事務局：駅から駅周辺の商業施設までの道や駅前広場等の段差をなくすなどを想定している。

委 員：バリアフリー基本構想を想定した方が公共交通計画とも連動可能で良いと思う。バリアフリー基本構想では、駅からの結節点から生活関連施設までをネットワークで繋ぐという考え方ができるので、それと合わせて公共交通の乗換といったような駅結節点評価が可能である。市が掲げていることが、バリアフリー基本構想と紐づけられそうなのであれば、事務局で検討されると良い。

会 長：「駅のバリアフリー化」はピンポイントすぎる。段差などは解消しているはずなので、どの部分が解消していないかが不透明である。駅を結節点にする場合、公共交通がどのように繋がるかが見えるような書き方をしていただきたい。

「空きテナントを活用した待合室」「デジタルサイネージ」というアイデアについて、茂原市程度の規模の都市だと具体的に話が進まないと思う。具体性が見えず文言だけになっている。一歩踏み込んだところでもう少し具体的に落とし込めるような部分を見つけて検討していただきたい。

委 員：アンケート調査結果より高齢者のタクシーチケット配布や割引が要望されているが、これらの要望に対する検討内容はどこに記載しているのか。実施していただきたいのだが、具体的な試算はできているのか。孤立している老人が増えているため、個々の見守りも含めて、連携を取

りたい。

事務局：具体的な試算はまだできていないが、福祉施策と連携させて検討していきたい。

委員：特に障害者向け支援は実施しているが、高齢者向けの支援はできていない。財政負担も考慮する必要があるが、要望があるのは承知しているので検討したい。

会長：北部コースの利用者が少ないという話があったが、タクシーチケットに振り替えるのは良くないのか。色々検討していただきたい。

委員：スクールバスや移動販売車の有効活用について、どのような検討をするのか。検討を5年間続けるのは長すぎると思う。スクールバスの活用など、交通全般を見て動いていただきたい。

事務局：スクールバスの日中有効活用等、市民バスを補助できるような動かし方をしたい。国の登録許可が違うのですぐには実現できないが、茂原市にとって現実的な活用ができるよう検討していきたい。

会長：十勝バスの例を掲載しているが、上手く運行されているのか。

事務局：利用状況は承知していない。茂原市に於いてこのような形が合っているのかも含めて検討していきたい。

会長：計画策定時は「検討」となるが、実現可能なものは途中から実施も可能なので、今の時点では「検討」「調査・研究」という表現になると思う。

委員：高速バスの利便性向上について、残念ながら茂原発の高速バスは上手くいかない可能性が高い。実施するとしても赤字のリスクは往々にしてある。この点について、茂原市の考えを聞かせていただきたい。

事務局：今現在の路線は茂原から羽田経由で横浜までの路線があるのみだが、そこも少し厳しいような状況である。圏央道ができたので、成田方面や東京方面の高速バスでの通勤通学を促進したいと考えている。厳しいという意見もあるが、検討を進めたい。

高速バスについては総合戦略の事業の1つとして圏央道を活用したネットワークの拡充を掲げている部分もあるので記載している。整合性や実現性について調整し検討する。

会長：難しいとは思いますが、代替案が見つけれたら良いのかなと思う。

委員：詳細は言えないが、国土交通省でラストワンマイルについて検討会を開催しており、現在パブコメを実施中である。タクシー事業の最低車両数緩和や、自家用有償運送における過疎地を明確にするなど、諸制度を導入しやすくする方向で動いている。実施となった場合、この計画にも反映できる部分がある可能性があるため、パブコメ終了後に反映されることを注視していただければと思う。既存の公共交通を活用した上で、自家用有償運送を活用するという位置づけは変わらない。

会長：事務局は引き続き情報収集に努めていただきたい。

委員：計画策定作業の期間は設定があると思うので、市のパブコメまでに修正が難しいのであれば、書面を出すのか、年内に会議を開催するか、お伺いしたい。

事務局：本日のご意見を反映させた上で、11月上旬に会議を開催、パブコメの実施、意見聴取、年度内に再度会議を開催という予定である。

委員：外房線利便性向上について、まずは乗っていただきたいので、そのような部分もご検討いただきたい。

会長：今回の水害でバスやタクシーが通れなかったところや水没してしまったところはあるか。

委員：路線バスについては、市内にはないが、市にかかわる路線であった。

委員：タクシーについては、アンダーパスに入っしまい、県内で3台水没してしまった。

委員：JRについては、乗務員の交代時、レンタカーを借りて移動したが茂原市で水没してしまった。

会長：今回の突発的な水害などで公共交通が動かなくなることもあるので、情報を一元化して市民に発信できるような仕組みがあればいいかなと思う。

4 その他

委員：次回の会議日程を早めに教えてほしい。

5 事務連絡

事務局：次回の開催予定は11月上旬を予定している。日程は文書でお送りする。

6 閉会 午前11時40分